

小学校での家庭科教育の実際

小池 郁子

一、性差について

「もう時間だよ。終わってね。糸屑も拾ってね」。先日、エプロンの製作での最終場面である。この言葉を聞いたら、時間的に見通しがない授業をしている。後始末の習慣ができていない。エプロンといえは六年生の学習内容、先生がこんなこと言うようじゃあ……。」と思われらるであらう。実際、言っている私も、気がひけている。

私は、横浜市の小学校の六年の担任をしている。家庭科専科の先生は学級数が減った三年前から不在となり、学級担任が家庭科の授業をしている（十年前は、私も家庭科専科をしていた）。この日、作業の時間的目安を立てて学習に入ったのであるが、ミシンの台数の関係や作業の関係等で、なかなか計画通りには進まない。止めさせようと思えば、それも可能であるが、つい児童の哀願に負けてしまう。

「先生、お願い。ここまで縫えばきりがいいの。次の音楽の時間には遅れないように行くから」には、弱いのである。そうこうしているうちに、いよいよ休み時間も終

わる頃となり、先程の私の言葉がこれも哀願するようにして、発せられるのである。

このような時は、ぎりぎりまでミシンを踏み、終わると同時に後始末し、約束通り家庭科室を去る。ふと見回すと、糸屑がすごい。やはり、時間で終われば良かったかな。思うのである。と、どうであろう。ほうきで床を掃いている子がいるのである。「えらい」と、思わずどなりに似た音量でほめてしまう。床を掃いていたのは男子三人であった。家庭科専科をしていた十年前を思い出してみると、黙っていてもほうきを持って掃くのは、女子であった。

作品（エプロン）にしても上手なのは、たいがい女子であったように思う。今年、男子にも力作が揃っている。例えば、リバーシブルに仕立て、一方の布地が他方より丈を長くして裁断してある。その長い分は、折り返してポケットになっている。私は、製作計画の段階で、リバーシブルの方法や折り返してのポケットの方法は紹介したが、この双方を満たす方法は紹介しなかった。彼

は、手のひら大の端切れ二枚で、双方の条件を満たすミエプロンを試作し、布の折り方、合わせ方、縫う順序などを明らかにしていったのである。そのエプロンは、大変素敵で、みんなから賞賛された。他教科においてもこのように男女差による減少はあまりないことに気がつく。「家庭科の男女共修」の背景には、いろいろな要因・経過があつてなるべくしてなつたのであるが、共修し続けてきた小学校の家庭科も、今や性差を感じさせない共修になっているという感じをもつ。

二、個による差

先述のほうきで糸屑を掃いている子は、じつは理髪店の長男で、小さいころから自然にほうきを持っていたということがある。店内で遊ぶ時は勿論、ほうきで髪を掃く時も、不思議と客や働いている人にぶつかったり触れたりすることがなかったという。個による差は、親の価値観、教育方針、家庭環境などによるものであると痛感させられた。

また、「家庭科」に対する意識も、十年前と変わってきたと思う。十年前の家庭科だよりは「男子にも、家庭で実践する場をせひ与えてあげてください」という文が決まり文句であったのだが、このごろは「男子にも」がなくなっていることに、はたと気付くのである。またまた、「男女共修」の四文字にうなずくのである。

三、幸せになる教科「家庭科」

ところで児童の意識では「家庭科イコール調理実習・被服製作」であるようだ。確かに、これらは楽しい。一方、「家族の生活と住居領域」の学習は、「えっ、そんなものがあるの?」という反応さえある。とくに「仕事」「清掃」の学習に入る前には、児童の喜ぶ顔が想像つきかねて、こちらも気が重くなってしまうがちである。何とかしたい、と常々思っていた。というのも、この領域は特に家庭科の目標と密に関連していて、軽んじることが決してできないからである。意欲的に学習する場が設定できなければ、「家族の一員として、思いやりの気持

ちをもつて意欲的に実践する姿」は望めない。「宿題です。やりなさい」では、こちらの心も痛い。理想としては、「先生、やってきていい?」「やってみたいよ」の声が児童から欲しいのである。

そこで考えに考えた末、「幸せ年表作り」をオリエンテーションでやってみた。「自分はどのようなことに幸せを感じてきたか、また、これからどのようなことが幸せと感ずるのでしょう」と投げかけ、誕生―幼児期―小学四年のこれまで―小学五、六年―学校卒業―就職―結婚―出産―育児―老後のそれぞれについて自由に記述し発表する活動をとった。そこには「自分の孫が、『おじいちゃん、ただいま』と言って自分に抱き付いて来た時」(男子)や、「赤ちゃんが、自分のことを初めて『ママ』と呼んだ時」(女子)などの発表に、うなずきや共感の声が上がったのである。この活動で「これまで自分は幸せにしていたことが多かったけれど、自分の努力で家族を幸せにしてあげられることが今ならありそうだ。できそうだ。家族の喜ぶ顔や『ありが

とう」と言われることで幸せを感じるものである。特に、結婚してからは、家族の笑顔が幸せの鍵となっている」と気持ち、自分の将来を想像することで、逆に「子どもとして、孫として、どのようなことをすれば家族が喜べるのか」を意識できたようである。そして「家庭科は、家族（近所の人）を幸せにしてあげる教科だよ」とおさえ、「仕事」「清掃」の学習に入った。そして、ついに、

「先生、私の考えた作戦で、お母さんは喜んでくれるかな。今日家で、他に工夫がないか実際にやってみていい?」「わたしも」の声が次々に上がったのである。また、トイレ掃除グループの話し合いでは、

「今までやったことあるけど、『もう、いつまでやってんのよ。だからだとして遅いわね』っていわれるの。また、言われるのいやだなあ」と言う子に、

「そう。何分かかっているの?」とグループの子。

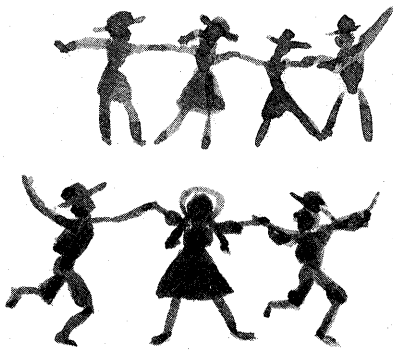
「一時間くらいかなあ」の声に、

「それは、時間かかり過ぎだよ。何やってるの」という

やりとりがあり、お互いのこれまでの作業の手順・内容を紹介し合い、時刻や所要時間や工夫など、いままでもりもよりよい方法で家族が喜んでもらえるような「仕事」にしていこうという、意欲に満ちた活動が繰り広げられたのであった。

四、家庭で

家庭訪問では、児童の実践の様子が分かった。



「息子がよく『家族の幸せ欲しい?』って言うんです。私は、『欲しい、欲しい』と言います。その後、息子は布団を敷いてくれたり、お茶を用意してくれたり。それで私は本当に幸せを感じるんですよ。主人は先程のやりとりを聞いて、『何だそれ』と言います。すると息子は『ぼくが何かしてあげると家族が喜んでくれるでしょう。それを見てぼくが幸せを感じるの。そういうことを家族の幸せっていうの』と説明するんですよ」という報告、「冬休み以来、本当によく仕事をしてくれるんですよ」という報告、「留守中に、親戚が尋ねて来た時のことです。いつもなら娘はお茶を出して自分の部屋に下がってしまうのですが、この前は私が帰ってくるまでずーっと話相手をしていたんです」という報告に、思わず涙ぐんでしまった。他にも、このような報告は沢山あったのである。また、児童の日記からも家庭での実践の様子が伺える。「雑誌の手芸コーナーで『麦わら帽子にバンダナやビーズをつけると、自分らしい物になる』』というのを読んで、ビーズを付けることにした。ビーズ

の付け方は知らないが、学校で習ったボタン付けと似ていると思ったので玉結びをして……。できあがった。何でもそうだが自分で作った物って、本当にうれしい」とか、「毎週日曜日は、部屋の大掃除をしている。これは冬休みからずっと続いている。……最後は、カーテンの洗濯をして終わり。母は、毎週洗濯しなくても平気だというが、一週間でもけっこうよごれていることがわかったので、私は洗濯をすることになっている。終わった後はどうしても気持ちがいい……」という日記を読むと、私自身「幸せ」を感じるのである。「授業の成果があがったのかな」と。

五、生活科と家庭科

「生活科でも、洗濯やお茶碗洗いをやっている。自分でできることは自分でやってみようよと、一生懸命やっているし、けっこう楽しくやっているのよ」との同僚の声。私は、家庭科と生活科との違いは何か、どのような系統性、発展性があるのかを問われているような気がした。

また生活科を学習してきた子達が家庭科を学習する時の
反応等を考えてもみる。

私自身の考えを述べると、実践を楽しくやってくれる
のと言われるように、高学年よりも低学年の方であろ
う。そして、体験は早ければ早いほど望ましい。では、
生活科があれば、家庭科は不要であろうか。否である。
なぜなら「家族を思いやって、好みを考えて、その家の
習慣に合っていて、よりよい方法で、家族の生活時間帯
を考えて、という実践」は低学年には無理であると考え
るからだ。第二次性徴を前にして個によっては気持ちか
揺れ始めている児童もいる。その頃に「家族とは」「幸
せとは」とじっくり考えることは、大変有意義であり、
実践に移すことで、より得るものは大きいと思われるか
らである。「家庭科を学習して、良かったと思うことは
どんなことですか。どんなことが生活をよりよくするこ
とに役立ちましたか」という投げかけを、五年生も終わ
ろうとする三月に記述してもらった。その中に「家族が
より信頼できるようになった」(資料)との答えが得ら

れたのである。私はせいぜい技能面についての記述が多
いであろうと予想していたが、それはくつがえされ、
感動さえ覚えたのである。生活科では家庭科の全ては
フォローできない、と確信した。ただし、生活科との流
れを大事にし、より効果的な学習活動等、十分考慮しな
ければならないと思う。さらに、その子達が、中学校・
高校と進学するにつれ、自分の学習したことや実践して
きたことなどが自然な流れの中で、生かしていける学習
が展開されることを願っている。そのような意味でも、
男女共修に期待するところが多い。

六、おわりに

十年後、この子らと再開する約束をしている。どのよ
うな成長を見せてくれるか楽しみだ。自分達が想像した
幸せを体験しているはずである。私はその姿を見て、また
「幸せ」を感じるであろう。

(横浜市立希望が丘小学校)

表は、児童の記述をそのまま区切ってまとめたもの
です。(①, ②, ③…女子. 1, 2, 3…男子)

〈資料〉

| |
|---|
| 家での様子など、感想 |
| お母さんにいろいろ頼まれるので、とても気持ちいい |
| 卵料理は家でよくやり、よろこばれている |
| 仕事にこんな深い意味があるんだなあとおもった。前より、がんばれるやろうと思えば、いつでもできる |
| お手伝いも大変だが、とても大切であるということがわかった |
| 家族みんなで楽しく過ごせた。弟に食事を出してあげられるようになった。料理の実践カードをだすうちに、料理が好きになった |
| 物があり過ぎることが分かり、生活を見直す機会ができて良かった。次にどんな物を買えばよいか、買わなくてよいものが分かった |
| 仕事をたくさんして、家族にほめられ、うれしかった |
| |
| いろいろなことができるようになってよかった |
| 整理が上手ねとほめられて、うれしかった。自分もみんなも幸せをかんじる |
| 料理をよく作るようになったし、留守中は、カレーを作ってあげた。少しは、家の人も休めるようになったのではないかと思う |
| 家族が集まって、自分の作ったお菓子をたべてくれて、とても楽しかった |
| 一人でミンが使えるようになってうれしい |
| 家族が今までより、もっと信頼できるようになった |
| |
| 知ってよかった |
| |
| 毎日やって毎日楽しい |
| |
| 仕事をくじげずに、がんばっているので、できるようになった |
| |
| 一人暮らしでもだいじょうぶかも |
| 団らんの授業では、そんなに団らんっていいものかふしぎに思っていたのだが、家で自分で用意しておしゃべりしたら、本当に楽しかった。団らんがこんなにいいものだとは、予想外だった |
| 役立っている |
| |
| 自然にできることができるようになった |
| |
| お母さんの役にたっていることがうれしい |
| 家族ってそういうものなんだと、思うことが多く、信頼感が深まった |
| 料理作りに参加したり、手伝ったりすると、早く夕飯が食べられる |
| |

五年生になって家庭科を学習して、自分にとって良かったと思うことは、どんなことですか。(どんなことが生活をよりよくするのに役立っていますか。)

| | 4年まで(実態) | 学習して、できるようになった |
|----|------------------------|--|
| ① | 経験なかったが | ミシンが使えたり、料理ができるようになった |
| ② | | 衣類を整理して、たんすの中がきれいになった |
| ③ | | 仕事をするには、家族の幸せのためでもあることを学んだ |
| ④ | | 団らん、整理、袋作り、ミシン縫い、手縫い |
| ⑤ | | 家族の大変さを学習した |
| ⑥ | | 団らん、整理(衣類・食器) |
| ⑦ | | |
| ⑧ | | 一人で料理ができるようになった。一人で袋やクッションが作れるようになった |
| ⑨ | ミシンの糸かけがめちゃくちゃ | 今は、自信をもってできる |
| ⑩ | | 整理・整頓の学習で、工夫すれば、しわにならずたくさん入ること |
| ⑪ | | |
| ⑫ | | 団らん |
| ⑬ | 一人でミシンは、使えなかった | |
| ⑭ | | 団らんで学習したことを家でやってみたら本当だった |
| ⑮ | | 料理で、どのくらいの塩を入れればよいか分かった |
| ⑯ | | お茶の入れ方や手伝いの大切さ |
| 1 | | お茶が入れられるようになった |
| 2 | ほとんど何もやらなかった | 団らん |
| 3 | | 食品の中の栄養が分かったこと 袋作りでじょうぶに縫ったほうがよいところが分かった |
| 4 | | 仕事 |
| 5 | | くつした2枚(1組)をコンパクトにたたむ方法を友達から教わった。オムレツ、団らん、ミシンができるようになった |
| 6 | | 料理がうまくなった |
| 7 | | ミシン、アイロン、ガスの使い方が分かった |
| 8 | (一人暮らしを夢見て、技をみがいている児童) | 野菜いためなどの料理、服の整理 |
| 9 | | 家の中の仕事には、やらなきゃならない仕事がいっぱいあることが分かった |
| 10 | (母の受験を応援している児童) | お母さんが働いている間にお手伝いをしておくことが多い |
| 11 | | |
| 12 | 料理を作ったことがなかった | |
| 13 | | 卵料理、野菜いため、ミシンの使い方、玉止め・玉結び |